窟沢Ｂ遺跡発掘調査現地説明会

令和４年 10 月 22 日（土）13:00～　　福島市文化振興課

公益財団法人福島市振興公社

調査の概要

窟沢Ｂ遺跡は、「一般国道 13 号福島西道路（Ⅱ期）事業」に伴って令和元年度に西道路開発範囲内で２度の分布調査が実施され、平石字窟沢、字八郎、字町畑地内において土器が表面採集されたことから、令和２年に試掘調査が実施されました。調査の結果、奈良・平安時代の竪穴建物跡や土坑、出土遺物は土師器片や須恵器片が確認されたことから当区域は窟沢Ｂ遺跡の名称で新規遺跡として登録されました。

また、本遺跡南側に隣接する町畑・吉治下遺跡について、福島市史別巻Ⅴ「福島の町と村Ⅰ」（昭和 57 年 1982）によれば古代の官道（東山道）は松川町関谷から山峯道を通り平石吉治宮の西に出て吉治下より山を降り山発田・上石・下石を経て永井川に向かうとされ、『信達二郡村誌』には「今ノ米沢街道ノ東ニ在リト云フ　吉治下　町畠等ハ昔ノ奥州街道ノ地ナリ」とあり、遺跡周辺に街道が通っていた可能性が推察されます。

調査成果

令和３年度には窟沢Ｂ遺跡北西部（Ａ･Ｂ区）の調査が行われました。調査の結果、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、ピットが見つかり竪穴建物跡の時期は出土遺物から奈良時代頃のものと思われます。出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器等が出土しました。

●Ｂ区２号竪穴建物跡から出土した土師器の蓋です。表裏を平滑にし黒色処理が施されています。

令和４年度調査は６月から開始、遺跡南半部（Ｃ～Ｉ区）の調査を行っています。見つかった遺構は昨年同様に奈良時代頃の竪穴建物跡・掘立柱建物跡が確認されました。

●Ａ区で見つかった掘立柱建物跡

●Ｂ区で見つかった奈良時代の竪穴建物跡。㊤は竪穴建物跡掘り込み作業。㊦はカマド跡

●Ｆ区で見つかった奈良時代の竪穴建物跡。㊤は竪穴建物跡全景写真。㊦はカマド付近の遺物出土状況。